

梅雨時の大雨に伴う農作物等の管理対策

令和元年 6月27日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が6月27日11時05分に発表した「大雨に関する新潟県気象情報第1号」によると、日本海の梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が入り、前線の活動が活発になるため、大気の状態が不安定となる見込みで、27日夜のはじめ頃から夜遅くにかけて雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる見込みです。また、その後も7月1日頃にかけて断続的に雨が降り、大雨となるおそれがあります。

今後の気象情報に注意するとともに、下記の管理対策を参考に農作物等の管理に十分注意してください。

1 水稲

【事前対策】

用排水路を点検し、ほ場の浸・冠水を防止する。

【事後対策】

- (1) 大雨時は、河川への影響を考慮し、水尻は完全に落とさず、一定水位を保った上での排水に努める。
- (2) 冠水した場合は、できるだけ早く排水を図り、葉先だけでも水面上に出せるよう努める。
- (3) 浸・冠水した場合は、稲体の弱体化による病害虫の発生が予想されるので、病害虫の早期発見・防除に努める。
- (4) 浸・冠水した場合は、葉色が上昇する場合がありますので、生育の変化に留意し、穂肥の施用量を調節する。

2 大豆

【事前対策】

明きよや排水口等の連結を点検・整備し、排水路の確保に努める。

【事後対策】

- (1) 浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水するように努める。
- (2) 湿害による黄化や生育不良などの症状が見られたら、窒素追肥を10a当たり成分で1～3kgを施用するとともに中耕・培土を行う。

3 園芸共通

【事前対策】

露地ほ場や施設周辺の排水路等の点検と明きよ・暗きよの排水路への接続を確認し、排水路の確保に努める。また、排水ポンプ等を使用する場合は事前に保守点検を実施し、遅滞なく排水できるよう準備する。

【事後対策】

- (1) 浸・冠水したほ場の停滞水は、根傷みの原因となるので、明きよやポンプ等を活用した速やかな排水に努める。
- (2) マルチ栽培では一時的にマルチをめくるなどして土壌の速やかな乾燥を図る。
- (3) 倒伏した株は早急に起こし、茎、果実、花穂等の曲がりを防止する。
- (4) 浸・冠水により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかな散水により汚れを落とす。
- (5) 病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して適切に防除を実施する。
- (6) 葉が傷んだ場合等は、草勢回復のため、液肥の葉面散布により追肥を行う。

4 野菜

【事後対策】

- (1) 露地の果菜類は、降雨が続いた後の強い日射により果実の日焼けや草勢の低下が懸念されるため、すいか等ではワラで果実を被覆するなど日焼け防止に努める。なす等で、しおれ症状が見られる場合は、若もぎによる草勢回復等を図る。
- (2) 交配中の果菜類は、水滴や湿度の影響で着果しないおそれがあるので、状況をよく確認し、必要に応じて再度交配する。

5 果樹

【事後対策】

収穫を目前に控えたももなどは熟期が早まることもあるので、品質低下とならないように適期収穫を徹底する。

6 花き

【事後対策】

切り花類や鉢物類では、降雨が続いた後の急激な日射により葉焼け（チップバーン）等の生理障害を生じやすいので、日射量に応じたこまめな遮光資材のかけ外しや換気等により適切な温度・湿度管理に努める。

7 畜産

(1) 牧草・飼料作物

【事前対策】

- ア 牧草、飼料作物は、浸水による倒伏、根腐れを防止するため、明きよ、溝切りによる排水対策を行う。
- イ 調製済の牧草ラップサイレージ等をほ場で保管する場合は、浸水による品質低下を防ぐため、水はけの良い場所に移動する。

【事後対策】

- ア 牧草、飼料作物のほ場に浸水等があった場合は、早急な排水対策に努める。
- イ 河川敷のほ場が浸水した場合は、品質確保のため牧草を刈り取り除去し、再生をうながす。
- ウ 流木、土砂等が流入した場合は、これらを除去するとともに、牧草の密度が著しく低下した場合は草地更新を準備する。

(2) 家畜管理等

【事前対策】

畜舎への雨水の浸入を防ぎ、配合飼料、牧乾草は濡れないよう、安全な場所に移動する。

【事後対策】

ア 畜舎への浸水があった場合は排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に搾乳機器は、故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

イ 家畜の観察を励行し、異常のある場合は速やかに獣医師の診療を受ける。

8 きのこと

【事前対策】

施設等への雨水の浸水を防ぐとともに、資材類を安全な場所に移動する。

【事後対策】

(1) 施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。

(2) 浸水した施設の電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。

(3) 浸水した培養・発生・生育物は速やかに施設外へ搬出し処分する。

(4) 浸水した施設は、空にして水で泥等を洗浄し、残留性のない薬剤で除菌する。

9 漁業全般

【事前対策】

早めの情報入手に心がけ、大雨が予想される際には漁具や飼育池等の管理に十分留意し、厳重に警戒するよう組合員へ周知する。

【事後対策】

(1) 河川から流出した流木などが港内や海上を漂流している場合があるため、出入港、操業時は、周囲の安全を十分確認し、漂流物に接触しないよう注意しながら航行する。

(2) 係留している漁船・漁具や飼育池等を確認する際は、安全を確保した上で実施する。